

ベトナム南部の拠点病院・チョーライ病院との医療技術協力プロジェクトが始まりました

国立国際医療研究センターが実施している「平成 27 年度医療技術等国際展開推進事業」の一環として、筑波大学附属病院では平成 27 年 7 月から 12 月の半年間のプロジェクトとして「ベトナム南部の拠点病院・チョーライ病院での医療技術協力」を開始しました。本事業の目的は「ベトナム南部の拠点病院であるチョーライ病院への医療技術協力を通して、南部ベトナムの医療水準の向上に寄与し、同地域の住民に対する医療提供の改善に貢献する」ことです。チョーライ病院は 1974 年に日本の無償資金協力により建設されたベトナム南部最大の病院で、国際協力事業団（のちに同機構）が長年協力を行い、さらに筑波大学附属病院でも 2008 年から協力覚書を交換し心臓血管外科、脳外科等を中心に協力を実施してきました。チョーライ病院は小児科・産婦人科を除くいわば成人を対象とした総合病院で、2014 年の統計では病床数 1,800 床、外来患者数延べ約 135 万人／年、入院患者数延べ 884,395 人／年、総手術件数 38,744 例／年という診療規模が巨大な病院です。これまでの日本の協力もあり同病院が地方レベルの病院を直接指導することなどにより同病院への協力が南部ベトナムの医療の向上に繋がることが期待できます。7 月中旬に本プロジェクトの全体計画策定の話し合いのため 秋山 稔 国際連携推進室長 がチョーライ病院に赴き病院幹部、対象の診療各科と協議し協力内容、時期・機関などについて基本計画に合意しました。協力対象は集中治療（ICU）、心臓血管外科、脳外科、消化器外科、循環器内科、内視鏡の 6 部門で特に集中治療では看護を主とした協力を実施する予定です。協力期間中、筑波大学附属病院からは 18 名が派遣され指導を行い、チョーライ病院から筑波大学附属病院に 14 名を受け入れ研修を実施する予定です。また、11 月には主に南部ベトナムの約 20 の省病院、ホーチミン市の約 10 の病院を対象に「術後管理セミナー」を計画しており、筑波大学附属病院からの講師の派遣とともにチョーライ病院や省病院からの発表もあり、南部ベトナムの同分野のレベル向上に寄与することを目指しています。さらにこれまでも実施してきた筑波大学附属病院とチョーライ病院間の遠隔医療カンファレンスも同期間中に 4 回実施予定です。これを契機に本院とチョーライ病院との協力がさらに深まり、共同研究や相互の研修などが継続的に実施されることが期待されます。



チョーライ病院



消化管外科との個別会議



全体会議でプレゼンテーションをする秋山室長



同左：(中央が室長、向かって左が筑波大学ホーチミン事務所 Phuong 職員)